62

ペ ラ グ ラ
――Josef Goldbergerの生涯と業績――

伊藤　泰広
トヨタ記念病院 神経内科

【背景・目的】ペラグラはナイアシン欠乏により生じる疾患で，古典的3徴のDementia（認知症），Diarrhea（下痢），Dermatitis（皮膚炎）として知られる．ナイアシン補充により速やかに回復する一方，診断・治療の遅れはDeath（死）に至る点で，4D diseaseとも言われる．ペラグラは現代先進国での発症は稀とされる．しかし我々は，ペラグラが稀でないこと，古典的3徴を欠く例が少なくないこと，また診断・治療上の課題を報告してきた．昨年の本学会ではペラグラ発生から原因究明に至る歴史，そして現代の問題点を報告した．今回Josef Goldbergerを取り上げ，彼の業績，そして現代に投げかけられたテーゼを検証したい．

【方法】文献に依った．

【結果】Josef Goldbergerは1874年，ハンガリーの貧しいユダヤ人農家に生まれた．1883年8歳時，父母兄弟達と共にアメリカに移住し，貧困移民の下町で幼少期を過ごす．持前の勤勉さから1890年，16歳で大学入学資格取得し，1892年The College of the City of New Yorkに入学．まもなく医学を志し，同年Bellevue Hospital Medical College（現New York University School of Medicine）入学，1895年卒業後，レジデント勤務の後，1902–6年，メキシコ，プエルトリコ，南部諸州で公衆衛生，特に感染防疫業務に携わり，当時そこで散発する黄色熱，チフス，デング熱，腸チフスの調査，予防対策に専心する．彼は自ら発生地に赴き，前線で原因究明・対策に当たったが，その中で自らこの感染症全てに罹患し，幸運にも無事快癒した．こうした防疫・感染症専門家しての経験が，当時有力な説の一つだったペラグラ感染症説が誤りと確信させる礎石となった．ところで20世紀初頭から数十年にわたり，アメリカ合衆国では特に南部15州の小作農を中心にペラグラが蔓延し，発症300万人，死者約10万人に上っていた．1914年ペラグラ調査を指示されたGoldbergerは，南部で精力的活動を開始した．彼はペラグラ専門施設の患者視察で，それが栄養摂取の問題と見抜き，その立証のため主に4つの研究を立案，実行する．1．孤児院の食生活を変更し，ペラグラ発症抑制を実証．2．刑務所囚人の志願者を募り，南部の典型的食事を半年間継続し，ペラグラ発症実験に成功．3．ペラグラ感染症説に対する反証実験：健康なボランティア16名による感染実験．通称“filth parties”（汚物パーティー）．ペラグラ患者の排泄物・血液・皮膚落屑をボランティアに塗布・溜飲・筋肉内注射．実験は計7回実施し，彼自身は全実験に参加．参加者のペラグラ発症は皆無であった．4．南部7村の徹底した疫学調査　農民の経済状況・食料品市場の開催頻度・アクセスを調査し，ペラグラ発症と蛋白摂取との関連を疫学的に立証．彼は，蛋白質に富む食物にペラグラ阻止因子（PPF）があると洞察し，その因子の同定に邁進したが，1929年1月17日腎癌により死去．遺体は遺言により荼毘に付され，ポトマック河畔に播かれた．1937年Elvehjemらが PPFはナイアシンであることを解明し，その補充療法で欧米のペラグラ禍は終息した．Goldbergerは，ある時仲間の研究者にこう語ったという．Pellagra is only ignorance; pellagra is only poverty.（意訳：ペラグラは無知に他ならないし，貧困に他ならないんだよ）．

【結語】現代社会でも貧困や無知は潜在する．また逆に医療者側の知識や経験の貧困と無知が，ペラグラの診断・治療を困難にする可能性がある．Goldbergerの言葉は，大いに警鐘となりうる．